



Via Latina 22

2021年3月 298号

総本部よりのお知らせーマリア会

コートジボワールでの終生誓願式



左より： François Nanan師, SM, 従属地区長のGeorges Kouame Gbeze師, SM,
Justin Gninkan Mao Coulibaly士, SM と フランス副管区長のJean-Edouard Gatuingt師, SM.

2021年1月31日、日曜日、Justin Gninkan Mao Coulibaly士がマリア会コートジボワール従属地区で終生誓願を宣立しました。誓願式はビエトリー-アビジャンのアフリカの聖母小教区にて行われました。ミサ聖祭は、フランス管区、管区長の代理として、副管区長Jean-Edouard Gatuingt師によって司式され、誓願を受け入れました。彼はコートジボワール従属地区長、Georges Kouame Gbeze師を含む数人のマリアニスト仲間たちに見守られていました。

式典の終わりに、ビエトリーのアフリカの聖母中学校の敷地にて、終生誓願者の両親、家

族そして友人たちと心のこもった兄弟的分かち合いが持たれました。

この日は、1月22日の福者シャミナード師の祝祭の熱気がまだ残るマリアニスト家族が出席しており、和気あいあいの1日となりました。全てはCovid-19拡大による厳しい規制に従って執り行われました。

東アフリカでの終生誓願式



左より：Gabriel Kirangah師, SM, Antony Owino 士, SM
とBernard Ombina Lugutu師, SM.

2021年2月27日は東アフリカ地区マリア会修道者にとって素晴らしい一日でした。この日、彼らはマリア会Antony Owino士の終生誓願を祝う喜びを享受しました。誓願式はザンビア、ルサカのMatero Boys聖堂で行われ、マリア会員、そして学校とマリア会共同体の少人数の友人たちが出席しました。

現在の感染拡大によって、大部分の友人や家族メンバーを誓願式に招待出来ませんでした。それでも誓願式は控えめながらより荘厳なものでした。しかしながら、ミサ聖祭はマリアニスト召命のフェイスブック上に生配信されました。こうして多くの人たちはTony士が誓願を宣立する時、彼の姿を眺め彼と一緒に祈ることが出来ました。

東アフリカ地区、地区長Gabriel Kirangah師がミサ聖祭を司式し説教を行いました。彼はAntony士が修道生活を継続する中での彼の将来の任務について話しました。

ミサの後、参加した少数の人々はAntony士と一緒に軽食を分かち合い、彼に祝意を述べました。この食事はまた、Antony士がマリア会員、彼の家族、そして彼の信仰の歩みの中で重要な役割を果たしてくれた多くの人々に感謝を表明する機会ともなりました。

東アフリカ地区長の任命

最近、総長評議員会は東アフリカ地区の次の地区長の任命について意見聴取を行いました。地区の殆ど全員から返事が届きました。



2021年2月18日の会議で、総長は総長評議員会の同意を得て、Stephen Wanyoike Mburu師を東アフリカ地区の次の地区長に任命しました。私たちは、東アフリカ地区のリーダーとして地区とマリア会に喜んで奉仕する前向きな姿勢を表明した、Stephen師に心から感謝します。

Stephen師は1973年4月25日、ケニアで生まれました。彼は1998年4月1日、ケニア、ナイロビにて初誓願を立てました。2005年1月22日、彼は終生誓願を宣立しました。イタリア、ローマのシャミナード国際神学校での3年間の勉強後、彼はケニア、ナイロビにて2009年10月24日、マリア会司祭に叙階されました。

Stephen師は2021年5月23日、彼の5年間の最初の任期をスタートします。

私たちはGabriel Kirangah師と地区長評議員会に対し、彼らの果たした奉仕について感謝したいと思います。

私たちは東アフリカ地区への彼の寛容さと貢献に心から感謝します。



トーゴ、ロメでのアフリカゾーン上長会議

当初2020年11月初旬に計画されていたマリアニストアフリカ協議会 (CAM) 会議は様々な国での医療規制に関連して何回か延期と、ためらいがあった後、2021年2月22日から24日までトーゴ、ロメでその毎年の対話と情報交換を行って開催することができました。この会議はアフリカゾーンの4つの行政単位、すなわち、東アフリカ地区とトーゴ地区、コートジボワール従属地区そしてコンゴ-特別地区の上長の出席で行われました。

2月28日から3月21日にかけて計画されていた総長評議員会のトーゴ地区への教会法上の視察訪問に先立って、教育局長Maximin Magnan士は、このアフリカゾーン会議に参加し、また仕事上の4つの行政単位の責任者に同伴するために、一週間前に到着しました。



左より： Georges Gbeze師, SM (IV), Denis Shamashanga士, SM (CO), Maximin Magnan士, SM (教育局長), Jonas Kpatcha師, SMとGabriel Kirangah師, SM (EA).

2020年11月19日と20日のビデオによる拡大総長評議員会の会議の終わりに当たって総長によって作成され、ゾーン議長と行政単位の上長に送付された総括は、この会議の間の上長たちの討議と話し合いの中心でした。

今度の夏から始まるこのゾーン協議会の構成は大きく変わります、なぜなら、行政単位上長の4分の3がその任務を終え、他の人と入れ替わるからです。この地域で進行中の、また“共通プロジェクト”へと発展する可能性がある種々の協力に焦点が当てられている現在の会議の成果は、それゆえ、出発点として、CAMの新たなメンバーの仕事を構成する要素となるでしょう。

Faustinoと共に復活祭に向かって

3月3日に、私たちはFaustinoの帰天を特別なかたちで思い出します。この追憶は、私たちがこの若者に感謝し、また最近の憂鬱な時期に何らかの熱意を取り戻す上で、彼の助けを求める機会を私たちに与えてくれます。彼は、困難な状況にあっても、主の助けでどのように前向きでいられるか知っています：《キリストは何と素晴らしい方でしょうか！》

皆さんの念祷の助けとして、復活祭に向かう私たちに同伴できるFaustinoの3つの心構えを提案します。

人を非難しない：

Faustinoは、たとえ人が何か間違いをしでかしたとしても、彼らを非難せず、彼らの欠点を許す何らかの口実をいつも見つけました。《もし、私たちが時々誰かについて語り彼らを非難すると、Faustinoは憤慨して言うのが常でした：“どうかいつも非難ばかりしないでください、多分、彼は良い点も持っているはずですから”》



世の中を広く見る：

Faustinoは、世の中で貧しい人たちが経験していることを知っていました。彼はいかにわずかの若者しかキリストを愛していないかを知っていました。彼は謙虚な人々に関心があり、彼らと話をしました。彼は1人の友人と共に問題を抱えた一人の若者を助きました。

聖性への召命：

《聖性は洗礼から導かれる帰結です；従って、私たちは皆、聖なる者になるよう召されています。主よ、私たちが聖なる者にしてください！》

《聖者になるのは難しいことです、しかし私たちは努力します、そうすれば多分そこに到達出来るでしょう》

復活祭に向かってよい日々を！



CLM/MLC国際チーム議長Béatrice Leblancの最初の回章

Béatrice LeblancはCLM/MLCメンバーに彼女の最初の回章を書いたところ
です。そのタイトルは、「CLM/MLCにおける養成、養成されることと養成す
ること」です。私たちは、この回章が共同体において意見交換し、深め、また
素晴らしいイニシアティブの機会となるよう願っています。

皆さんは下記のリンクをクリックすると異なる言語でこの回章を読むかダ
ウンロードすることができます。

[英語](#) - [スペイン語](#) - [フランス語](#)

最近の総本部通信

- 訃報：3号
- 2月3日：総指導者会議と若い行政単位の責任者会議、総長André-Joseph Fétis師から3か国語で全行政単位責任者宛て送付
- 2月3日：マリア会－未成年者や立場の弱い人々の保護、総長André-Joseph Fétis師から3か国語で行政単位責任者と評議員会に送付
- 2月8日：マリアニスト・カリスマについての質問、マリアニスト家族世界評議会から3か国語で行政単位上長と霊生部長に送付
- 2月15日：マリアニスト家族の保護の祝日のためのメッセージ、マリアニスト家族世界評議会から3か国語で全マリア会員宛て送付